新津市の明日を担う青少年のための環境整備、施設整備を進めていただきたいこと。

まちづくりの主役は、疑いもなくそこに住む住民です。どこに住んでいても、ある水準を国が確保すべき一定の行政分野を除き、地域の振興をどのように図るかは、それぞれの地域の住民がその責任と判断のもとに決定するべきです。それが、それぞれの地域の個性を発揮することにつながるのです。

しかし、私たちの足元を見つめ直すとき、非常に気になることがあります。それは、新津市の将来を託すべき青少年が、人と人のふれあい、あるいは自然とのふれあいの機会が極めて少ない中で育ってきているのではないかということです。

今、私たちの周囲には、自然の中で泥んこになって遊ぶ子どもたちの姿や、辻々でグループになって遊ぶ子どもたちを見ることができません。また、こうしたことは若者たちについてもいえるのであり、若者の活動がほとんどなくなってきているのです。これらは、将来のまちづくりにとって重要なポイントだと思います。まちづくりは究極的には人づくりでもあるだけに、地域リーダーの養成、組織化の推進や青少年のための環境整備、施設整備を進められるよう提案します。また、この項目の提案は、老・壮・青あるいは老・壮・幼という世代を超えた交流の場の整備を強く意識したものであります。

□考えられる事業展開例

子どもたちが自然の中で思う存分遊びまわり、そこから生活の知恵を獲得していけるような施設の整備、あるいはイベントの開催など。また、勤労青少年が集い、積極的に社会と関わっていくことを助長する事業やスポーツ施設の拡充

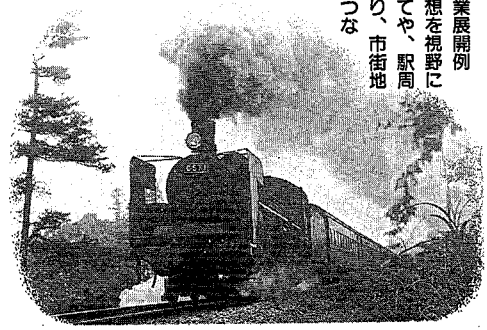
〝鉄道〟という本市独自の資源を生かしたまちづくりを進めていただきたいこと。

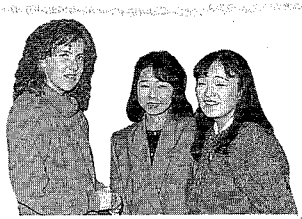
都市には、それぞれ固有の歴史、文化、風土、地域構造があります。大切なことは、他の都市の追随ではなく、独自の個性を持った表情豊かな都市をつくるという姿勢です。新津市の場合、その条件に合致するものとして〝鉄道〟を挙げることができるでしょう。

新津市は、明治三十年の北越鉄道開通並びに新津駅開業以来、鉄道と格別に深い関わりを育しながら発展してきました。一時は「鉄道のまち」として全国に知られた歴史と伝統を有しているわけであり、この本市独自の資源をまちづくりに活用しない手はありません。新津固有の文化と歴史を継承し、それを積極的に発展させなければなりません。「鉄道のまち」の伝統を生かしたまちづくりを進めるよう提案します。

□考えられる事業展開例

鉄道博物館構想を視野に入れた基金積立てや、駅周辺への集客を図り、市街地中央部活性化へつなげるための駅前公園・広場・多目的ビルなど。また、石油の里とセットになって本市観光の目玉となるような事業展開を望む。





ふるさと創生資金を基金に積み立て、その果実を運用して個性豊かな魅力あるまちづくりに資していただきたいこと。

ふるさと創生資金の趣旨を生かし、継続的かつ長期的な有効活用を図る一手法として基金に積み立てて、その果実の運用により、個性豊かな魅力あるまちづくりを行うよう提案します。

□考えられる事業展開例

・各種イベントへの助成

現在、市全体の祭りとして注目を集めるようになってきました。そこで、これらをはじめとする地域活性化へ向けての各種イベントを助成し、より集客力のあるものにすることによって地域の活力づくりの一助にしてはどうかと考えます。

・国際交流促進への助成

近年、国際化の進展は目覚しく、これからのまちづくりにおいて、この国際化を避けて通ることはできません。市民の国際感覚の醸成、支援のため提案します。

は「にいつ桜まつり」と「にいつ夏まつり」が挙げられますが、このほかにも大がかりに開かれるものとして、四月下旬から六月上旬にかけての「にいつ花とみどりの祭典」、十一月の「にいつ菊まつり」があります。また、最近は「もみじまつり」や「鉄道まつり」も新津独自のイベントとして

この四項目については、特に優先順位をつけませんが、市当局には厳粛に受け止められ真摯に対応されるよう希望します。